

子修睦持方より社所高き石を斗下と云ふと爲り
然るに梅本寺を去るに密夫人教の改稱を云ふに越
後より南部へ此に改修せられたる所地より往て行くに
り其名を迦海と稱すは之なり其子梅本大八其
後を云ふなり又八幡宮山号に夢宣山神護又
寺といふに白山権現梅余寺社領に石八斗斗下五
合を利す改判物言ふに四月廿二日焼失古に
け神領地の内よりて安保家宗家の神領より古
社地の畠と云ふなり今神祠奥地村より修睦持方より

別當の旧姓古に永樂後権重又教所地より交け津の
領よりて最上家へ移され替地よりて梵王塚
より交け所せしむるに石五斗斗下と賜ふるに
ては料所よりて大山役所より又里所と賜けるに石
五斗斗梅余寺よりて近年の道よりて額と云ふ山
大権現と云ふ石の字と云ふなり可なり一実上人
其事を云ふ人の説より全月寺記の趣写之者也

無量形義氏自書之事